

實
驗
國
語
讀
本

尋常小學校用

卷二

8
71

檢定申請本

K120.8
85
2

K120.8

85

2

右文館編輯所編



實驗
國語讀本

尋常小學校用

東京 右文館

と ま し う

うし。うま。うしと。

第一課



吉澤義成



第二課

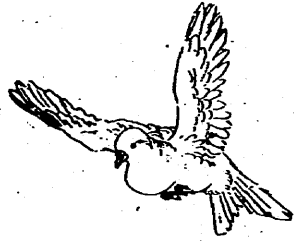
は め に

はと。

まめ。

はとに

まめ。



ハトガ

マメヲ

ヒロツテ

キマス。

第三課

卷二

右文倉藤片

つき。

すすき。

すすきに

つき。



ウサギ

ウサギ

ナニミテ

ハネル。

三十一 官蔵反

第四課

うさぎ。

たぬき。

うさぎと

たぬき。

さ た ぎ ぬ



ウサギが、

タヌキト、

フナアソビニ、

ユキマシタ。

第五課

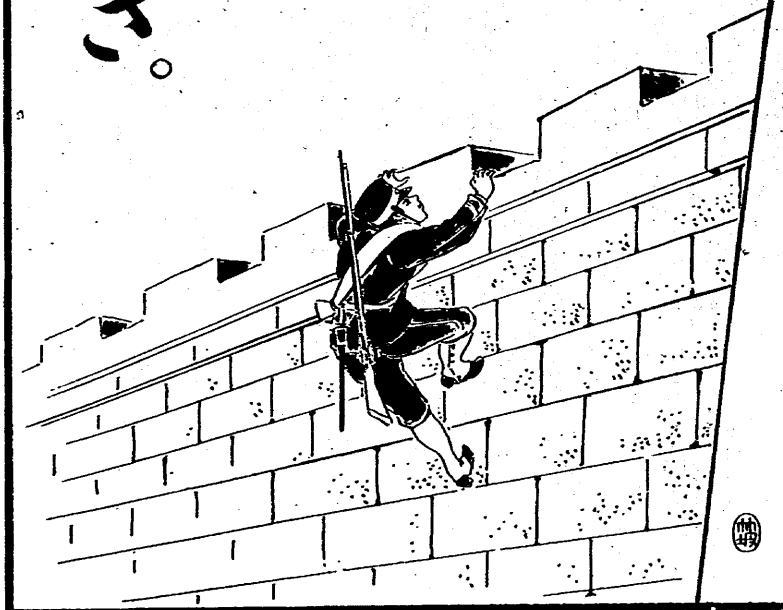
よ い へ か が

つよい

へいたい。

たかい

いしがき。



つよい

へいたいが、

たかいいしがき

ニ、ノボリマス。

第六課

な の け

いけにはす。

はすの

はなが

さきました。

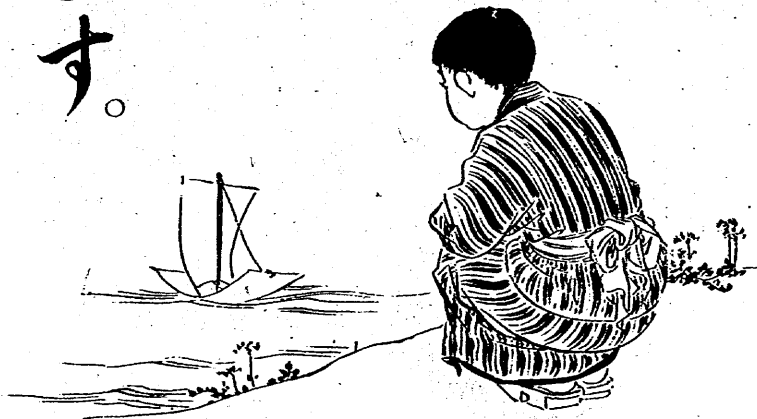


田

ヒライタ、ヒライタ、
 ナンノハナガ、
 ヒライタ、レンゲノ
 ハナガ、ヒライタ。

ツケギノフネガ
 デキマシタ。
 カミノホガ、
 ツイテ、
 牛マス。

ふ ね に ほ。
 ほ かけ た
 ふ ね が、
 は し り ま す。



第八課

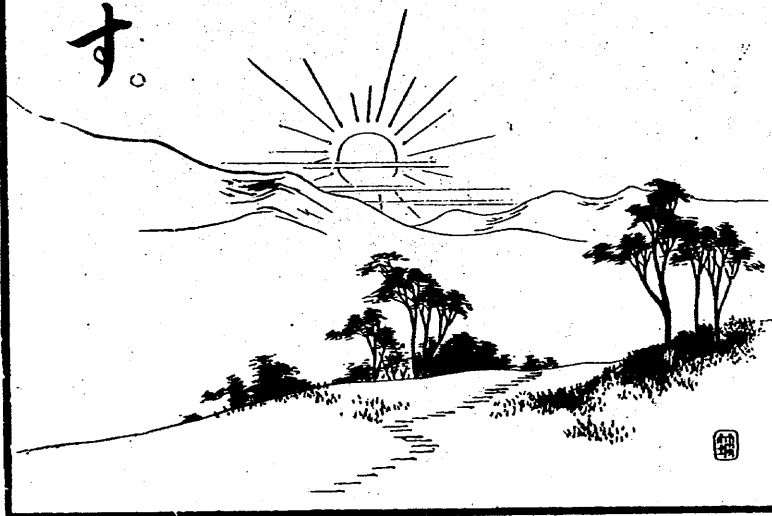
あ あさひが

ひ のぼりま

ぼ した。

て よいてんき

で あります。



第九課

え えびすさまが たひ

び をつり

ました。

を さをが

をれさう

で、あります。



第十課

せ あれ、せんせい
 ん よんで、をら
 ら れます。
 み みなさん、い
 そ いで、ゆき
 ゆ ませう。



第十一課

つ なひき、が
 は じまり
 ます。
 は やく、おい
 や なさい。
 お く あつ
 ま れ。



第十二課

さあ、おてたま

を、とりま

せう。

じゃん、けん、

ぽん。

おあきさんがかちました。



第十三課

ケフハ、テン

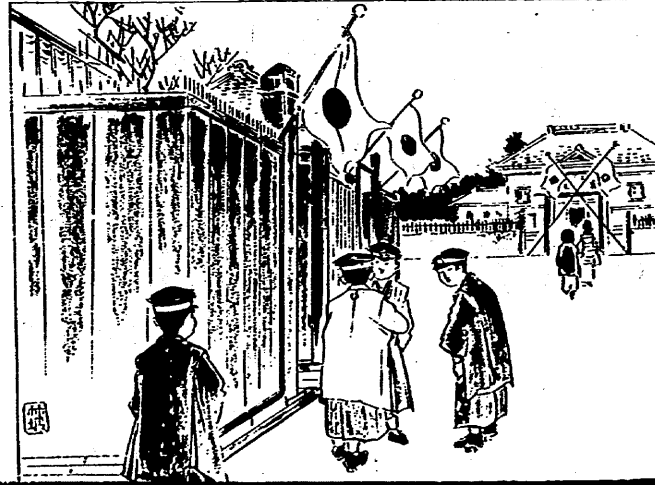
チヨ―セツデ

アリマス。

ハヤク、ガツコ

ヘイツテ、

キミガヨヲ、ウタヒマセウ。



きみがよのうた

きみがよは

ちよに、やちよに、

さざれいしの、

いはほとなりて、

こけのむすまで。

ざ

む

第十四課

わ
わたくしは、

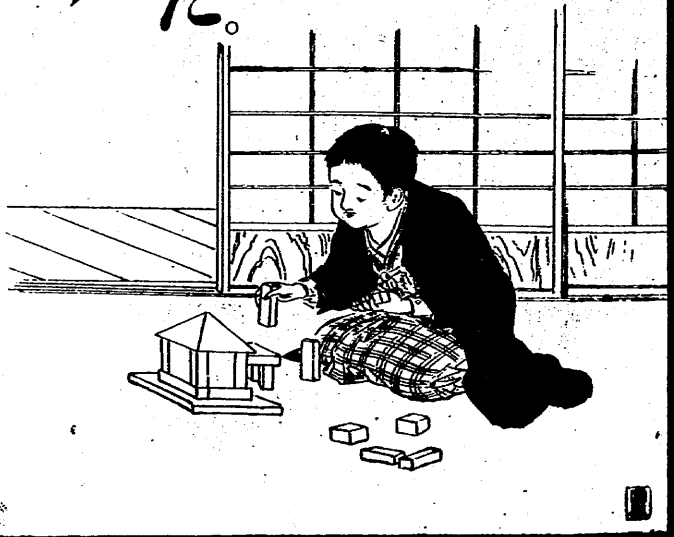
つみきで、

いへを、つ

くりました。

こ
ここが、いい

くちで、あります。



も
これ
から、
もん
を、
たて
ませう。

第十五課

ろ
オトウト「
ざくろが
みがいり
ました。
あにさん、
どうぞ
とつて
ください。

げ
ア三「
なげて、

あげます。

おとして

はいけ

ません。



ば　ご

オトウト「もう、たくさんで、あ
ります。かごが、一ぱい
に、なりました。

第十六課

ココニ、タクサン、ジガ、
カイテ、アリマス。ヨンデ

びふ　ぶ　べ　ぺ　づ　ず

ミマセウ。

すずり。

みづいれ。

ぺん。

ぺんじく。

なべ。

かまど。

だいこん。

かぶら。

ほんぶ。

はっぴ。

第十七課

ち る ばる



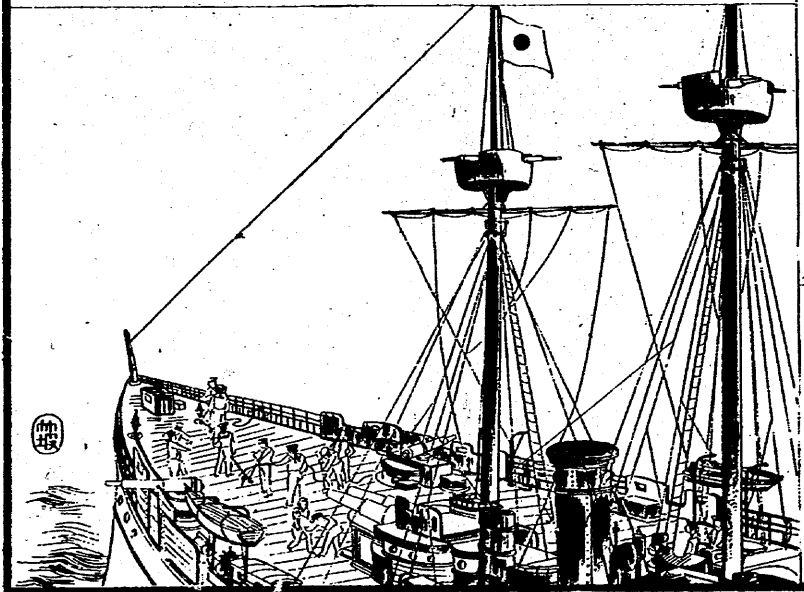
ちいさんが
たいこを
たたいて、
るます。
さるがしば
るをして、

第十八課

をります。
あれいまかたなをふり
あげました。
第十四
右文館藏版

ち る
これはぐんかんの
であります。

ほぼしらの
 うへには、
 ひのまる
 のはた
 があげて
 あります。

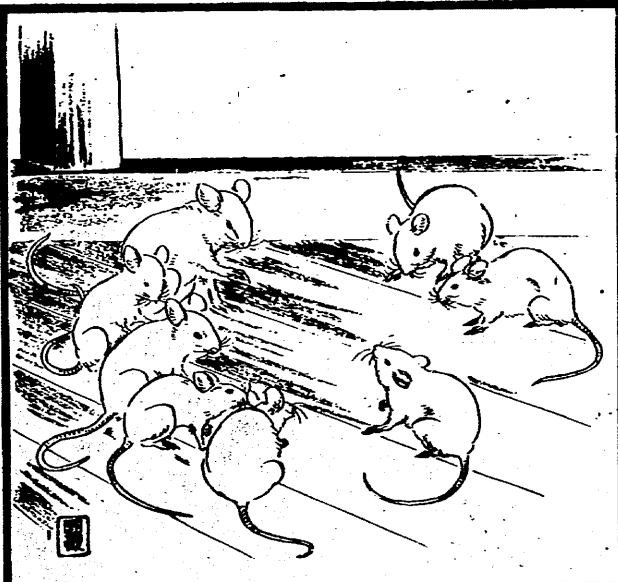


ぜ
 かんぱんのうへには、
 おほぜいのすいへいが、
 はたらいてをります。

第十九課

ねずみがあつまつて、ねこ
 にとられぬくふりを

そーだんしました。



一匹きの
こねずみ
が、ねこ
のくび
に、すず

をつけるが、よいと、
いひました。

としとつたねずみは、だ
れが、すずをつけに
ゆくのかと、たづね
ました。

せ <small>ぜ</small>	み	あ	け <small>げ</small>	の
す <small>ず</small>	し <small>じ</small>	さ <small>ざ</small>	ふ <small>ぶ</small>	お
ん	ゑ <small>ぜ</small>	き <small>ぎ</small>	こ <small>ご</small>	く <small>ぐ</small>
	ひ <small>び</small>	ゆ	え	や
	も	め	て <small>で</small>	ま

な	た <small>だ</small>	る	へ <small>べ</small>	い
ら	れ	を	と <small>ど</small>	ろ
む	そ <small>ぞ</small>	わ	ち <small>ぢ</small>	は <small>ば</small>
う	つ <small>づ</small>	か <small>が</small>	り	に
る	ね	よ	ぬ	ほ <small>ぼ</small>



第二十課

人 アノ人ハ、大キ

大 ナイヌヲ、

ツレテキマス

オトナシサウ

犬 ナ、犬デハ、



アリマセンカ。
シロヨ、コイ、コイ、ダンゴ
ヲヤルゾ。

第二十一課

太 太ろーさん、大ろーさむい
では、ありませんか。

氷 水 川

ごらん なさい、
 あの川の
 水が、こほ
 りました。
 いまにあつ
 い
 氷が、はり



ませう。

あつい氷が、はれば、そ
 のうへで、あそぶこと
 が、できます。

第二十二課

お、ゆきが、ふりました。

山あのみつき山を、ごらん

さい。

ゆきが、木

に、一はい

か、つて、ゐ

ます。

木



本

むかうの、一本の木に、

ちひさなとりがとまっ

てゐます。

あれは、なんといふと

りで、ありませうか。

第二十三課

大キナ、ユキダルマガ、ア

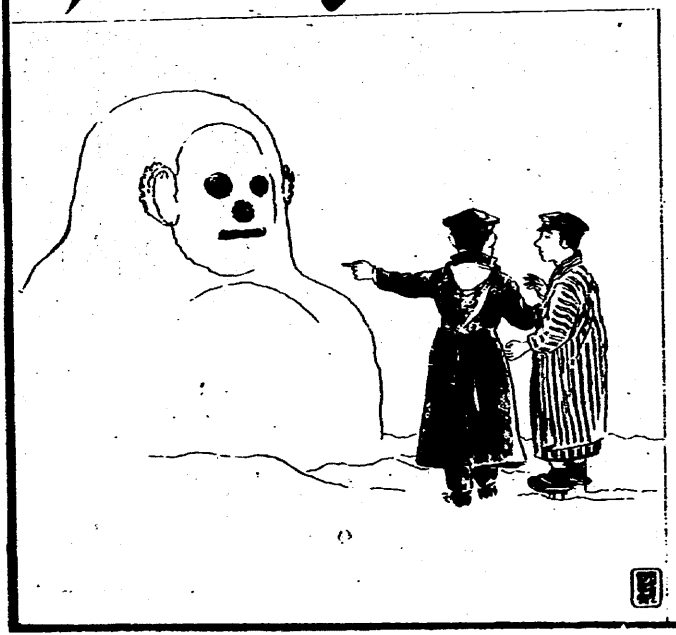
リマス。

アノカホ

ヲ、ゴラン

ナサイ。

口
ト、ハナ



目
トハ、スミデアリマ
ス。目ハ、タドンデア

リマス。

耳
耳ハ、ナンデ、アリマス

カ。

貝
アレハ、アハビノ貝デ

アリマス。
 ダレガ、コシラヘタノ
 デ、アリマセウ。ウマク、
 カンガヘタデハ、アリ
 マセンカ。

第二十四課

じろーさんのうちで、
 大ぜいのしよく人が、
 ふしんを、してをり
 ます。

上
 上にあがつて、木を、く
 大
 んでをるのは、大工で

入 日

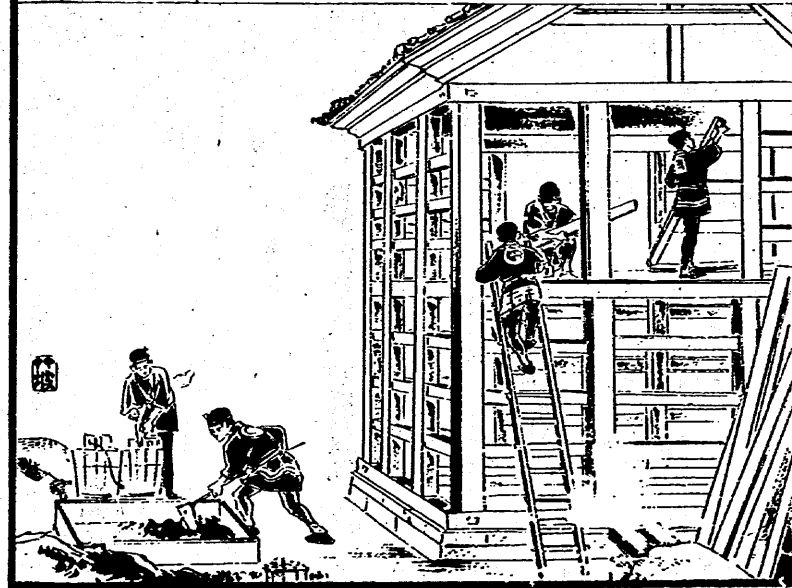
日
ニ、入リマシタ。
日
ガ、モウ、ニシノ山

第二十五課

ます。
あれは、おほかた、どぞー
で、ありませう。

土下

あります。
下で、土を
こねて
をるのは、
さくわん
であります。



卷二

右文館藏版

月 出

トリガ、ミナ、ネグラへ、
 カヘツテユキマス。
 アレ、ヒガシノホーヲ、
 ゴランナサイ、大キナ
 ツキガ、出マシタ。
 コンヤノ月ハタイソー、

中



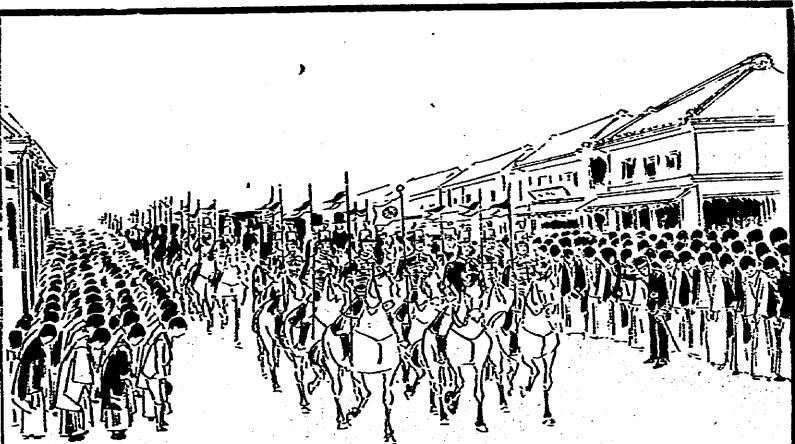
マルイデ
 ハアリマ
 センカ。
 オ、イマ、月
 ガ、クモノ
 中ニカクレ

マス。

第二十六課

天子
このゑは、天子さまの、
おとほりのところであ
ります。
おばしゃのさきに、うま

左



にのつて、
ゐるのは、
おとももの
きへいで
あります。
みちの左

K120.8

右

には、かつこのせいと
 がならんでゐます。
 みちの右には、おほせい
 の人が、れいをして、
 をります。

實験
 國語讀本卷二終

卷二

オウ食非片

同
 九月一日發行
 八月一日發行

定價表	
三冊	金拾貳錢
四冊	金拾陸錢
五冊	金拾捌錢
六冊	金拾貳錢
七冊	金拾陸錢
八冊	金拾捌錢

著者
 有權著作

著作
 右文館編輯所
 發行
 須永和三郎
 印刷
 昭尻爲作
 東京市神田區富山町八番地
 電話本局一九五四番

發行所
 右文館

右
 には、かつこーのせいと
 が、ならんでゐます。
 みちの右には、おほせい
 の人が、れいをして、
 をります。

實験
 國語讀本卷二終

明治三十四年七月廿九日印 刷
 同 年八月一日發 行

定價表

卷一	金八錢	卷五	金拾壹錢
卷二	金九錢	卷六	金拾貳錢
卷三	金拾錢	卷七	金拾參錢
卷四	金拾錢	卷八	金拾參錢

著作權
 所有證

著 者 右文館編輯所
東京市神田區富山町八番地

發 行 者 須永和三郎
東京市神田區富山町八番地

印 刷 者 沼尻爲作
東京市下谷區御徒町二丁目十六番地

東京市神田區富山町八番地

發行所 右文館

電話本局一、九五四番

